

一般助成 子どもの健やかな成長を願う事業(みちびき・はぐくみ)

「子ども向け環境ワークショップ図鑑『ミホンテホン』開発」事業

子どもたちが環境について学ぶワークショップを開催するための情報発信で環境教育の促進に寄与

地球温暖化をはじめ様々な環境問題が深刻化する今日、環境教育の重要性はますます高まっている。小中学生向けの環境教育推進活動に取り組む「一般社団法人未来キャンバス」では、子どもたちが体験しながら楽しく学習できる「環境ワークショップ」を開催するための情報を広く発信するため、検索しやすいポータルサイトを立ち上げた。



子ども向け環境ワークショップ図鑑「ミホンテホン」のホームページ

環境教育に適した学びの手法であるワークショップの見本集を制作

「環境はすべての生きものにとって重要なテーマです。そもそも生きることを学ぶ環境という教科が学校の授業にないのはおかしいと思います」と話す「一般社団法人未来キャンバス」の入山忠さん。近年、文部科学省は学校教育において環境教育の推進を図る方針を示し、小中学校でも環境教育への取り組みが進められてきているが、専用の教科書もなく方法も確立されていないため、先生のなかで環境教育のあり方を模索しているのが現状だという。

環境教育の効果的な学びの手法として注目されているのがワークショップだ。環境教育では知識や理解に留まらず主体的な参画が重視されるが、体験型のワークショップなら子どもたちも楽しんで自主的に環境について学ぶこと

ができるという。最近では企業や自治体などが環境をテーマに体験学習するプログラムを積極的にやっているが学校の教育現場でもこうした環境ワークショップを模索する動きがあるものの、実践経験がないと開催へのハードルが高いという現実がある。

「活動を通して学校の先生方と接する機会も多いのですが、ワークショップを開きたくても実際にどうしたらよいかわからないという声を多くいただきます。そこで、環境ワークショップを開催したい人の手助けになるような、気軽に検索できるサイトがあったらよいと考え、『ミホンテホン』を立ち上げました。各地で行われている効果的な事例をもとに、開催者の見本手本となるように情報を発信していきます」と入山さんは語る。

小中学校と連携して効果的なモデルケースを発信

ポータルサイト「ミホンテホン」の基本仕様は、環境ワークショップが様々な視点から検索可能で、初心者でも始められるように詳しい手法や情報が記載されていることである。各ワークショップは内容によって、工作などの行程を説明する「図鑑」と、ワークショップの組み立てや注意点などを教示する「教科書」の2つのカテゴリに分けられる。ちなみに、現在アップしている図鑑には「ダンボール滑り台」、子どもたちに地元の海について考えてもらう「海のキャラクター作り」など、教科書には「海辺の野鳥観察会」などがある。これらワークショップの素材は、子どもたちが興味を持ちそうなものや環境の定義を広げ時代に沿ったものを、ネットから全国で行われている事例を選び出し、それをもとに

子どもたちをいかに楽しませるかを考えて組み立て直すという。

「自分たちが発信したものが本当に楽しくて、洗練されたもので、可能性を秘めているワークショップなのかを確認するために、今後は学校と連携して放課後などにテスト的に実施させてもらい、反応を見ながら各コンテンツのブラッシュアップを図っていきたい」と入山さん。まずは小中学校の先生に声を掛け、10校ほどモデルケースをつくって発信していき、そこから自治会や行政の担当者、イベント主催者、保護者などへと利用を広げていきたい考えだ。

「これまでバラバラだった情報の集約で、開催へのハードルが下がり、各場面で効果的なワークショップが開催され、多くの子どもたちが環境についてさらなる学びを得ることを期待したい」と語った。



ダンボールを使った工作を解説したページ



どんぐりを使うアート作品の作り方を解説したページ

助成団体: 一般社団法人 未来キャンバス <http://miraicanvas.net/company>



サイトの活用で多くの子どもたちに効果的な学びの機会を

ポータルサイトの開発のように成果が形として現れない事業はなかなか理解されない場合が多いのですが、初めての申請で採用していただけて大変うれしく思います。助成で、これまでにないサイトを構築することができました。今後は誰でも自由に書き込める開かれたサイトを目指し、知見を増やしながら利用者と共に育てていきたいと思っています。

一般社団法人 未来キャンバス
理事 入山 忠さん